

平成 22 年度決算概要報告

◆法人全体

項 目	①	②	③	④	⑤	増減・差異理由
	H22決算	H22当初予算	予算差引 (①-②)	H21決算	前年度差引 (①-④)	
経常費用合計	56,293	56,055	238	54,754	1,539	人件費の増(+621) 医薬材料費の増(+526)
経常収益合計	57,942	56,029	1,913	56,461	1,481	附属病院収益の増(+2,697) 運営交付金収益の減(▲1,106)
経常利益	1,648	▲26	1,675	1,707	▲59	
臨時損失	3,059	-	3,059	22	3,037	退職給付費用(2,691)、過年度分支給手当等(344)
臨時利益	197	-	197	22	175	第1期中期計画終了に伴う運営交付金退職金分の収益化(174)
当期純利益	▲1,212	▲26	▲1,186	1,707	▲2,919	
目的積立金取崩額	1,852	-	1,852	-	1,852	退職給付費用への充当(1,823)、施設整備への充当(29)
当期総利益	639	▲26	665	1,707	▲1,068	

(単位:百万円)

(参考)翌年度繰越分	71
実質利益	568

経常収支比率 ^{※3}	102.9%	100.0%	3.0%	103.1%	▲0.2%
運営交付金依存比率 ^{※4}	13.9%	18.3%	▲4.4%	16.4%	▲2.5%

<法人共通コメント>

【費用】

- ・医師、看護師の増や超過勤務手当の支出増により、人件費が増加しております。(＋621百万円)
- ・両病院患者数の増に伴い、医薬材料費が増加しております。(＋526百万円)

【収益】

- ・診療報酬改定の影響により附属病院収益が増加しております。(2,697百万円)
- ・運営交付金交付額の減少に伴い、運営交付金収益が減少しております。(▲1,106百万円)

【特別損失】

<退職給付費用>市から法人への転籍者にかかる退職金は、横浜市在籍年数分を市から別途運営交付金で財源手当がなされております。一方、それ以外は、法人負担となっておりますが、第2期中期計画が始まるにあたり、留保財源等を活用して、将来の退職給付見込額を適正に積算し、引当金を計上しました(2,691百万円)。

<過年度人件費諸手当>未払いとなっていた医師超過勤務手当の過年度分の支給(187百万円)、また同様に未払いとなっていた大学院等従事手当の計上(157百万円)が過年度人件費として計上されております。

【その他】

- ・退職給付費用、過年度人件費の特別損失計上により当期純利益は赤字となっておりますが、目的積立金の取崩(主に退職給付費用への充当)により639百万円の当期総利益を確保しております。

<凡例>

※※単価、患者数等は小数点以下を表示していないため、見た目の計算結果が合わないことがあります

※1 物件費：診療経費、教育経費、研究経費、受託研究経費、一般管理費等

※2 医薬材料費比率 = (前年度繰入分＋当期医薬材料費－大学特性経費－翌月(年)繰越分) / 附属病院収益

※3 経常収支比率 = 経常収益 / 経常費用

※4 運営交付金依存比率 = (運営交付金収益－経常利益) / 経常費用

※参考：週刊ダイヤモンド(2010/8/14,21合併号)

「頼れる病院ランキング」より

- ・病床利用率：90%以上
- ・平均在院日数 15日未満
- ・人件費比率：50%未満
- ・経常収支比率：100%以上

項 目	H22決算	H22 当初予算	予算差引 (①-②)	H21決算	前年度差引 (①-④)	増減・差異理由
教育・研究経費等	3,669	3,750	▲81	3,605	64	IT環境整備にかかる教育研究支援経費の増(+38)、外部研究費獲得増に伴う受託研究費の増(+41)
役員人件費	39	60	▲21	47	▲8	副理事長分の減(予算比▲21)
教員人件費	4,850	4,982	▲132	4,649	201	年度当初の欠員及び休職者のうち給与不支給者が発生したこと等による減(予算比▲132)
職員人件費	1,582	1,660	▲78	1,491	91	年度途中の欠員、給与改定等による減(予算比▲78)
人件費合計	6,472	6,702	▲231	6,188	284	
一般管理費等	716	796	▲80	758	▲42	一般競争入札、複数年契約、仕様の見直しによる保守・委託費の減(▲34)
減価償却費	703	647	56	676	27	資産取得増に伴う減価償却費の増
経常費用合計	11,561	11,897	▲336	11,228	333	
運営費交付金収益	6,644	6,796	▲152	6,960	▲316	交付額の減(▲216)、固定資産取得増に伴う減(▲98)等
授業料収益等	2,989	2,795	194	2,907	82	学生数の増(+163人)に伴う授業料収益等の増
受託研究等収益	1,170	995	175	998	172	外部研究費獲得金額増等に伴う執行額の増
資産見返負債戻入	549	457	92	474	75	資産取得増に伴う資産見返負債戻入の増
補助金収益等	418	655	▲237	655	▲237	前年度文科省大型補助金を単年度で獲得したことによる減(▲186)、その他補助金収益の減(▲51)
雑益等	379	197	182	458	▲79	H21固有事由(奨学寄付金関連等返還金)による減(▲49)等
経常収益合計	12,152	11,897	255	12,454	▲302	
経常利益	590	-	590	1,226	▲636	
臨時損失	1,357	-	1,357	22	1,335	退職給付費用(1,219)、過年度大学院等従事手当等の追給(114)
臨時利益	22	-	22	22	-	
当期純利益	▲743	-	▲743	1,226	▲1,969	
目的積立金取崩額	800	-	800	-	800	退職給付費用への充当(785)、施設整備にかかる費用執行(15)による増
当期総利益	56	-	56	1,226	▲1,170	

(参考)翌年度繰越分	51
実質利益	5

人件費比率	52.6%	54.9%	▲2.3%	53.8%	▲1.2%
経常収支比率 ^{※3}	105.1%	100.0%	5.1%	110.9%	▲5.8%
運営交付金依存比率 ^{※4}	52.4%	57.1%	▲4.7%	51.1%	1.3%

① ② ③ ④ ⑤

(単位:百万円)

項 目	H22決算	H22当初予算	予算差引 (①-②)	H21決算	前年度差引 (①-④)	増減・差異理由
物件費 ^{※1}	10,577	10,329	248	10,356	221	物件費は、外来患者数の増等に伴う医薬材料費の増(+48)、治験の件数増加等に伴う受託研究費の増(+22)、派遣職員の増加による一般管理費の増(+40)等により、221百万円の増加となった。 人件費は、給与・賞与の引き下げに伴う減(▲99)はあったものの、非常勤職員の増や超過勤務手当の支出増(+203)等に伴い、172百万円の増加となった。 減価償却費は、償却が終了した資産の増加に伴い減少となった。
うち医薬材料費	6,496	6,366	130	6,448	48	
人件費	9,508	9,665	▲157	9,336	172	
減価償却費	1,203	1,290	▲87	1,271	▲68	
経常費用合計	21,289	21,285	4	20,964	325	
運営費交付金収益	2,432	2,857	▲425	2,777	▲345	運営交付金収益は交付額の減少(▲611)等により345百万円の減少となった。 附属病院収益は延べ入院患者数が減少し病床利用率も低下したものの、診療報酬改定の影響による診療単価の大幅な上昇やHCUの開床に伴い、1,052百万円の大幅な増加となった。 また、新規の補助金受入の増により、補助金等収益が68百万円増加した。 資産見返負債戻入は、対象資産の償却終了にともない50百万円の減少となった。
附属病院収益	18,738	17,685	1,053	17,686	1,052	
資産見返負債戻入	282	324	▲42	332	▲50	
補助金等収益	200	133	67	132	68	
雑益等	329	258	71	319	10	
経常収益合計	21,982	21,259	723	21,248	734	
経常利益	692	▲26	718	283	409	
臨時損失	756	-	756	-	756	退職給付費用(617)、過年度超過勤務手当・過年度大学院等従事手当(139)の計上
臨時利益	74	-	74	-	74	第1期中期計画終了に伴う運営交付金退職金分の収益化
当期純利益	10	▲26	36	283	▲273	
目的積立金取崩額	432	-	432	-	432	退職給付費用への充当に伴う取崩(419)、施設整備による取崩(13)
当期総利益	443	▲26	469	283	160	

(参考)翌年度繰越分	20
実質利益	423

入院単価	61,640円	56,667円	4,973円	57,466円	4,174円	診療報酬改定等による上昇
病床利用率	88.7%	91.3%	▲2.6%	90.9%	▲2.2%	感染症の発生による病床制限等による低下
平均在院日数	16.4日	-	-	16.6日	▲0.2日	紹介・逆紹介の推進等による低下
外来単価	12,243円	11,859円	384円	11,884円	359円	診療報酬改定等による上昇
外来患者数/1日	1,957人	1,883人	74人	1,902人	55人	
医薬材料費比率 ^{※2}	34.2%	35.4%	▲1.2%	35.9%	▲1.7%	価格交渉の強化、後発医薬品導入の推進、薬価改定の影響等による低下
人件費比率	50.7%	54.7%	▲4.0%	52.8%	▲2.1%	附属病院収益の増による低下
経常収支比率 ^{※3}	103.3%	99.9%	3.4%	101.4%	1.9%	附属病院収益の増等による上昇
運営交付金依存比率 ^{※4}	8.2%	13.5%	▲5.4%	11.9%	▲3.7%	交付額の減、収益額の増等による低下

◆センター病院

(単位:百万円)

項 目	① H22決算	② H22 当初予算	③ 予算差引 (①-②)	④ H21決算	⑤ 前年度差引 (①-④)	増減・差異理由
物件費 ^{※1}	11,977	11,426	551	11,262	715	物件費は、入院及び延べ外来患者数の増等に伴う医薬材料費の増(+479)、光熱水費、備品費等の増による経費の増(+244)、仕様の見直し等による委託費の減(▲57)等により、715百万円の増加となった。 人件費は、看護師の増等により、166百万円の増加となった。
うち医薬材料費	7,653	7,017	636	7,174	479	
人件費	10,724	10,688	36	10,558	166	
減価償却費	741	758	▲17	739	2	
経常費用合計	23,442	22,872	570	22,561	881	
運営費交付金収益	384	566	▲182	929	▲545	運営交付金収益は、交付額の減少(▲226)等により545百万円の減少となった。 附属病院収益は、診療報酬改定の影響等による診療単価の上昇や、総合周産期母子医療センターの6床増床等により1,645百万円の増加となった。
附属病院収益	22,816	21,665	1,151	21,171	1,645	
資産見返負債戻入	197	218	▲21	224	▲27	
補助金収益等	157	174	▲17	173	▲16	
雑益等	251	248	3	260	▲9	
経常収益合計	23,807	22,872	935	22,758	1,049	
経常利益	364	-	364	197	167	
臨時損失	945	-	945	-	945	退職給付費用(854)、過年度超過勤務手当(73)、過年度大学院等従事手当(17)の計上
臨時利益	100	-	100	-	100	第1期中期計画終了に伴う運営交付金退職金分の収益化
当期純利益	▲479	-	▲479	197	▲676	
目的積立金取崩額	619	-	619	-	619	退職給付費用への充當に伴う取り崩し
当期総利益	139	-	139	197	▲58	

(参考)翌年度繰越分	-
実質利益	139

入院単価	67,525円	64,328円	3,197円	63,420円	4,105円	診療報酬改定等による上昇
病床利用率	90.1%	91.5%	▲1.4%	90.1%	-%	
平均在院日数	15.0日	-	-	14.7日	0.3日	
外来単価	13,150円	12,385円	765円	12,150円	1,000円	診療報酬改定等による上昇
外来患者数/1日	1,941人	1,845人	96人	1,927人	14人	
医薬材料費比率 ^{※2}	33.5%	32.4%	1.1%	33.9%	▲0.4%	価格交渉の強化等による低下
人件費比率	47.0%	49.3%	▲2.3%	49.9%	▲2.9%	附属病院収益の増による低下
経常収支比率 ^{※3}	101.5%	100.0%	1.5%	100.9%	0.6%	附属病院収益の増等による上昇
運営交付金依存比率 ^{※4}	0.1%	2.5%	▲2.4%	3.2%	▲3.2%	交付額の減等による低下